

介護コミュニケーション論

[講義] 第2学年 通年 選択 介護コース必修 4単位

《担当者名》長谷川 聡(非) haseg@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

介護実習およびその関連科目学修に際して必要な、要介護当事者・家族・住民・職員とのコミュニケーションに関する知識と技術・技能について基礎から学ぶ科目である。

【学修目標】

- 1) 介護専門職に必要なコミュニケーションスキルと人間関係について理解するために、対人および集団コミュニケーション訓練を体験する。
- 2) 「コミュニケーションへの配慮」、「傾聴の態度」、「ことばの介助」を説明して実践できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	シラバスと学修方法を説明できる。 学生の個別学習ニーズを検討する。	長谷川
2	対象別コミュニケーション1	高齢者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
3	対象別コミュニケーション2	認知症者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
4	対象別コミュニケーション3	聴覚言語障害者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
5	対象別コミュニケーション4	発達障害・高次脳機能障害者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
6	ヘルス・コミュニケーション2	相互理解を促進するコミュニケーションの基本事項と概要について検討する。	長谷川
7	役割別コミュニケーション1	家族・地域の関わりとそのコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
8	役割別コミュニケーション2	多職種連携・職場におけるコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
9	ケアリング・コミュニケーション1	コミュニケーションの原理と基本事項について検討する。	長谷川
10	ケアリング・コミュニケーション2	ケアリングとケアリング・コミュニケーションの基本事項と概要について検討する。	長谷川
11	ケアリング・コミュニケーション3	「声かけ」技能を体験して、その技法・方法・価値について検討する。	長谷川
12	ケアリング・コミュニケーション4	「一往復半」技能を体験して、その技法・方法・価値について検討する。	長谷川
13	ケアリング・コミュニケーション5	「非言語コミュニケーション」技能を体験して、その技法・方法・価値について検討する。	長谷川
14	ケアリング・コミュニケーション6	「傾聴・受容と共感」技能を体験して、その技法・方法・価値について検討する。	長谷川
15	中間総括と討議	対象理解と介護コミュニケーションを総括し、その意味・目的・価値について検討する。	長谷川
16	ヘルス・コミュニケーション1	コミュニケーション学の基本事項 ヘルス・コミュニケーション学の基本事項	長谷川
17	ヘルス・コミュニケーション2	患者＝医療者関係のコミュニケーションの基本事項と概要について検討する。	長谷川
18	ヘルス・コミュニケーション3	相互理解を促進するコミュニケーションの基本事項と概要について検討する。	長谷川

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
19	ヘルス・コミュニケーション 4	情報提供のためのコミュニケーションの基本事項と概要について検討する。	長谷川
20	ヘルス・コミュニケーション 5	行動変容を促進するコミュニケーションの基本事項と概要について検討する。	長谷川
21	ヘルス・コミュニケーション 6	多職種連携のコミュニケーションの基本事項と概要について検討する。	長谷川
22	ヘルス・コミュニケーション 7	健康教育とヘルスキャンペーンの基本事項と概要について検討する。	長谷川
23	ヘルス・コミュニケーション 8	リスク・コミュニケーションの基本事項と概要について検討する。	長谷川
24	ヘルス・コミュニケーション 9	メディア・コミュニケーションの基本事項と概要について検討する。	長谷川
25	ヘルス・コミュニケーション 10	オンライン・コミュニケーションの基本事項と概要について検討する。	長谷川
26	ヘルス・コミュニケーション 11	ソーシャルアクションとアドボカシーの基本事項と概要について検討する。	長谷川
27	コミュニケーション演習 1	対面コミュニケーション:面接相談のロールプレイを体験して検討する。	長谷川
28	コミュニケーション演習 2	対面コミュニケーション:グループファシリテーションを体験して検討する。	長谷川
29	コミュニケーション演習 3	オンライン・コミュニケーション:オンライン対話を体験して検討する。	長谷川
30	全期総括と振り返り	介護コミュニケーション論を再度総括し、その要点を振り返り検討する。	長谷川

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業参加（討議発言、ロールプレイ参加、リアクション・シート）60%、中間課題20%、期末課題20%。

【教科書】

（前期使用）「介護初任者研修テキスト2 コミュニケーション技術と老化・認知症・障害の理解(第5版)」小池将文・森繁樹監修 日本医療企画

（後期使用）「保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション学入門」石川ひろの著 大修館書店

【備考】

Google Classroom, Google Driveを用いた遠隔授業教材・課題を用意している。Classroomのストリームを講義進行に合わせて逐次公開するので積極的に活用してオンライン自習することが期待されている。

教科書は前・後期で異なるが、前期開始時に両方とも入手しておくことが望ましい。

【学修の準備】

前・後期各期の教科書を事前に通読し、読めない漢字を調べてルビを振る、ノートを作るなどして読めるようにしておくこと。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1,4

【実務経験】

行政職員(福祉技術職)、社会福祉法人理事長

【実務経験を活かした教育内容】

相談機関・医療機関・社会福祉施設での実務経験を活かし、高齢者・障害者とその家族の相談やケアの方法、あるいは関連機関・関連職種・地域住民との実践的コミュニケーションスキルを修得する。